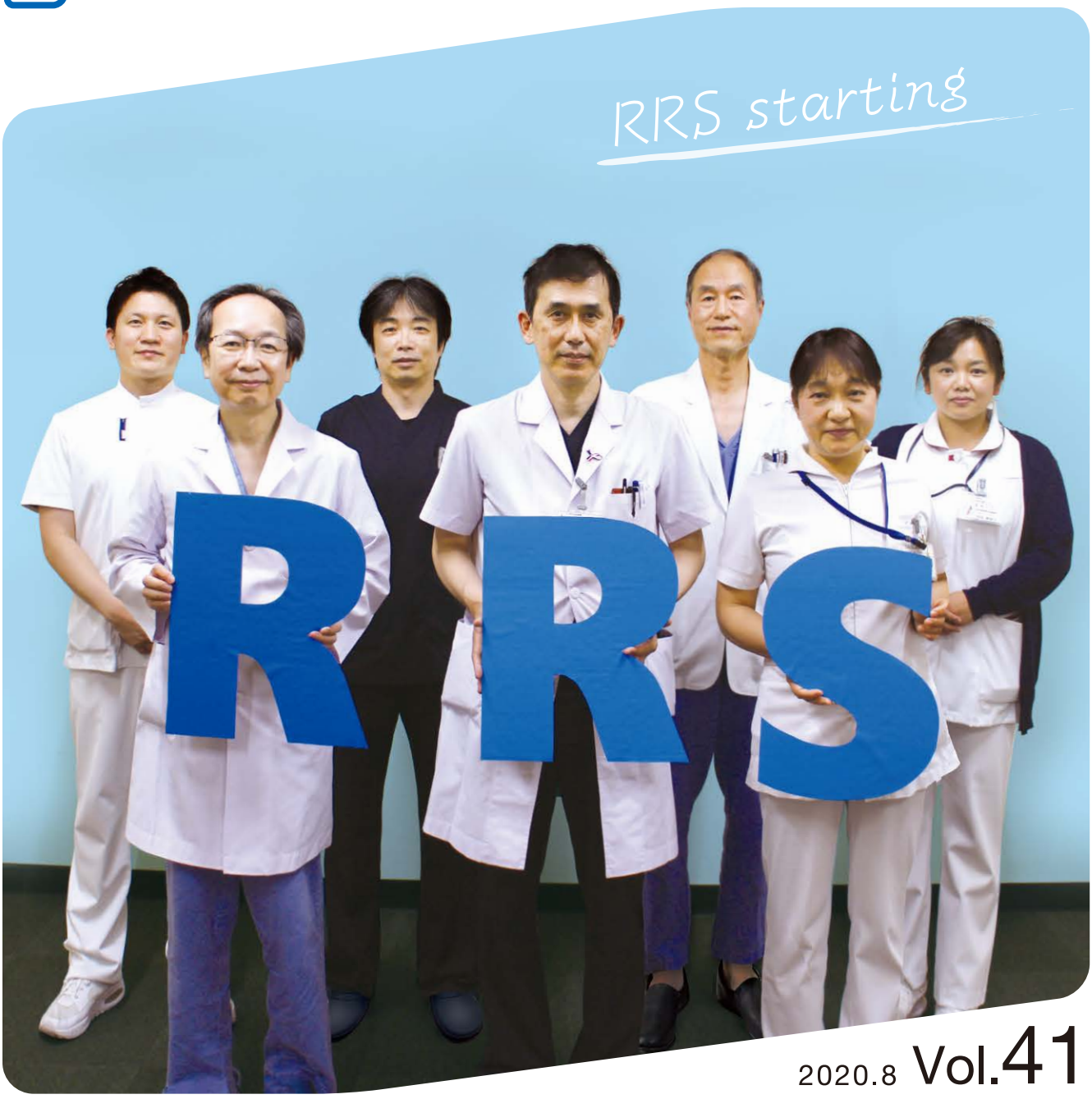
山口県立

# 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

## RRS（Rapid Response System）始動




2020.8 Vol.41

❶副院長就任挨拶（福迫副院長）/ ❷看護部通信（田島看護部長就任挨拶）/ ❸❹特集 RRS（Rapid Response System）始動
❺部署だより 中央検査部 / ❻地域医療連携ニュース 清水室長就任挨拶・応援メッセージの紹介　院長だより
❼インフォメーション 受賞報告・当院の「新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組み」・広報番組放送予定・編集後記
外来診察担当医表（別紙）

# 副院長就任挨拶

副院長　福迫俊弘

2020年4月に副院長を拝命しました福迫です。
皆様、どうぞよろしくお願いします。
専門は脳神経内科です。センターだより39号（2020年2月発行）で、専門についてはご紹介しておりますので、そちらをご覧いただけたらと思います。副院長として携わる、病院の経営や管理・運営の大変さは以前、中村康彦副院長が書かれておられますので、編集委員から病院を離れたプロフィールを紹介する提案をお受けしました。
出身は長崎県佐世保市で、以前は佐世保重工業とアメリカ海軍で栄えていました。九十九島が近く、海水浴など海のレジャーが盛んな印象がありますが、実際は全くそんなことはありません。佐世保湾は軍港で、湾口が狭く、十分な水深があります。軍艦が接岸するためには急な段差が必要であり、砂浜があれば敵が海から上陸できるため近くに海水浴場はありません。一番近くの海水浴場はバスで1時間かけて行かなくてはならないため、ほとんど行った記憶がありません。海沿いは米国海軍と佐世保重工業をはじめとした船舶会社が占めています。
長崎市と同様、海沿いの道からは急な坂で、戦前戦後に多くの人が流入してきたときは車が普及していなかったことから、車が入られないような狭い道の両側に住宅が密集しているため、今は無人の廃屋が多く見られます。娯楽は少なく、長いアーケード以外はハウステンボス前身のオランダ村も離れていましたので、山の中で遊んだ記憶がほとんどです。
高校は佐世保北高等学校で、ジャズアニメ「坂道のアポロン」の舞台です。入学してすぐに近くの烏帽子岳で応援練習があるのですが、休憩所の屋根に乗って応援指導する応援団がカッコ良くて帰り道で入団を決意しました。ご想像の通り、見かけの怖い先輩はいましたが、実際はとても優しく思いやりのある方々ばかりでした。当時から声は小さかったので、よく怒られましたがなんとか3年間やり遂げました。一番キツかったのは膝を90度曲げた中腰で“突き”の練習です。30分以上同じ姿勢でいると足がプルプル震えます。竹刀を持った先輩がいるので途中で姿勢は崩せません。おかげで運動部でもないのに山口大学入学時の身体測定では垂直跳び89cmでした。
大学に入学してからは6年間、バスケと麻雀に明け暮れました。バスケは初心者だったので船に乗っている写真の真ん中にいる同級生の窪田くんと3月まで済生会下関総合病院におられた阪田健介先生に基礎から教えてもらい、なんとか形になりました。写真右側に座っている甘いマスクのイケメンは当時の麻雀仲間で当院におられた脳神経外科の林田修先生です。
脳神経内科医として、副院長として私も彼らに負けないようにしっかり頑張っていく所存です。

## Profile〈プロフィール〉

1962年長崎県佐世保市生まれ。
佐世保北高等学校から山口大学に進学。
卒後は大学院に入学し、当時まだ診療科として独立していなかった精神科の中の神経内科班に所属。
1989年に初代教授森松光紀先生が赴任され、正式に神経内科を目指す。周東総合病院、山口大学、宇部興産中央病院を経て、2005年当院に勤務。
プライベートでは宇部のバスケットボールクラブチームに所属し、日本医師バスケットボール大会（参加90チーム、総勢1500人）とそのシニア大会を楽しんでいる。休日はゴルフ。



看護部 通信
Nursing department communication

# 看護部長 就任挨拶

看護部長　田島 真由美

2020年4月から看護部長に就任いたしました田島です。微力ではありますが、誠心誠意努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

当院は、県の基幹病院として救命救急センターや総合周産期母子医療センター、第一種・二種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院など多くの機能を有しています。今年は特に、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、感染症指定医療機関として、迅速かつ的確な対応が求められています。これまで行ってきた感染症対応訓練と高度急性期病院としての看護実践力を活かし、確実な感染管理と患者さんやご家族への丁寧なケアの提供を行っています。

あらゆる背景の患者さんとご家族が安心して医療を受けられるよう、看護部では「利用者の立場に立った安全で質の高い看護を提供します」の理念を基軸に、患者さん一人一人に「真摯に向き合い　寄り添う看護」の実践を目指しています。
質の高い看護を提供するためには、人材育成と働きやすい職場づくりが必要です。自律的に学習できる環境と、認め合い、学び合える教育体制の充実を図っており、現場に即した院内研修を充実させ、地域への公開研修も拡大しています。同時に、看護師一人一人に目を向け、不安や躓き、喜びを共有しながら、成長を支援しています。また、私たちが目指す看護の実践とワークライフバランスの充実に向けて、主体的な改善活動を進め、明るく生き生きとした組織作りに取り組んでいます。

今後のさらなる高度・専門医療の提供と信頼される医療チームの一員として、看護力を高め、さらに院内外の多職種との連携を充実させることで、患者さんやご家族の生活をしっかりと支えていけるよう努力してまいりたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

**看護部理念**

看護職員は、利用者の立場に立った安全で質の高い看護を提供します。

**目　　標**

1. 科学的根拠に基づいた看護の提供
2. 臨床実践能力の向上
3. 相互信頼関係の構築

特　集　Rapid Response System / 院内迅速対応システム

当院では、病状の急変による突然の心停止などを未然に防ぐ、「RRS（Rapid Response System：院内迅速対応システム）体制」を、2020年4月に立ち上げました。今回は、RRS立ち上げの中心メンバーとなった田中浩副院長、池田安宏内科系主任部長、木原雅子医療安全推進室次長に、当院のRRSについて伺いました。

# RRS始動　～“予期せぬ心停止”を　未然に防ぐ～

**Rapid Response Team（院内迅速対応チーム）の構成**

救急科、外科、脳神経内科、循環器内科、消化器内科等の診療科医師と救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師等で構成される。

田中 浩 副院長

## ▶ RRSとは?

当院では、これまでは入院患者さんに予期せぬ心停止などの急変が起きた時には「救急コール（コードブルー）」で対応し、心肺蘇生行為を直ちに行ってきました。しかし、いったん心停止を起こしてしまうと蘇生は成功してもその後の生存率は残念ながら高くはありません。そこで、心停止を起こす前に予知することができないかを検討したところ、心停止が起こる数時間前には症状の悪化が認められる例が多いことが分かりました。その変化に早期に介入し、病態の急激な悪化を事前に防ぎ、急変による予期せぬ心停止を回避しようとする仕組みがRRSです。

池田 安宏 内科系主任部長

## ▶当院のRRSとRRTの役割

バイタルサインの変化を発見した病棟からの連絡を受けRRSが起動すると、RRT（RapidResponseTeam:院内迅速対応チーム）の看護師がベッドサイドに行き、患者さんの状態を直接観察し、全身状態をアセスメントします。引き続き病棟で経過観察という評価であれば、注意してほしい点を看護師に伝えます。医療的措置が必要と判断した場合はRRTの医師に介入を依頼し、ICUへの入室や治療をRRT医師から主治医へ提案します。

こういったRRSの仕組みやRRTの役割について、院内にどれだけ浸透しているかの確認を、毎月の医療安全ラウンドの際に病棟毎に行っています。

木原 雅子 医療安全推進室次長

## ▶危険予知の目を養い安全に対しての意識を向上させる

「なにか変である」、RRS起動基準の7番目の項目です。この項目があることによって、患者さんと多くの時間を過ごす看護師は、変化に気づいたときにRRSを起動させやすくなります。また、普段から危険予知の意識を持つということは、看護師として必要不可欠なものです。看護のプロとしての第6感はトレーニングをすれば身につくものだと思いますので、安全に対しての意識を向上させるという意味でも「なにか変である」この項目を重要視しています。

## ▶ RRSを継続・発展させるために必要なこと

RRTの活動を定期的に行うこと。研修会などを開催してRRSの概念を院内に浸透させること。RRTを気軽に呼んでもらえるように敷居を下げることが必要だと考えています。

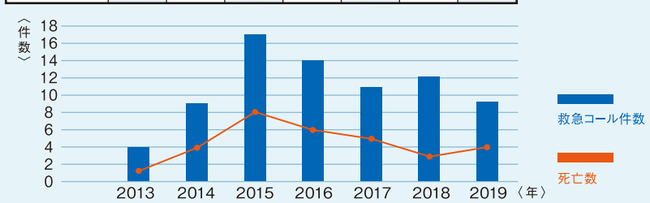
当院の院内心停止によって起こった救急コールは年間5～18件の間でここ数年推移しています。今後はRRSにより、予期せぬ心停止の多くを未然に防げる救急診療体制が患者さんへ提供できるようになり、これまで以上に安心して治療を受けていただけるようになると考えています。

**RRS起動基準**

1. 心拍数　HR<40または>130bpm
2. 収縮期血圧　SBP<90mmHg
3. 呼吸回数　RR<8または>28回/分
4. 経皮酸素飽和度　SpO2<90%
5. 意識の変容
6. 尿量の低下　<50mL/4hr
7. 上記以外でなにか変である

**当院の救急コールと死亡数の推移**

| 〈年〉 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 救急コール件数 | 4 | 9 | 17 | 14 | 11 | 12 | 9 |
| 死亡数 | 1 | 4 | 8 | 6 | 5 | 3 | 4 |



部署だより
From the department

# 中央検査部

Central inspection department

## 「真に実力のある検査室」を目指して

中央検査部技師長　渋田 秀美

中央検査部は1名の専任医師、40名の臨床検査技師、3名の事務職員からなる部署です。医療の進歩とともに求められる臨床検査はその専門性を増し、現在は8部門（生化学検査、血液検査、輸血検査、一般検査、細菌検査、病理検査、生理検査、生殖医療）に分かれて検査と業務を行っています。

特に、緊急性の高い検体が提出される生化学検査、血液検査、輸血検査は動線を考慮してワンフロアに配置し、迅速な結果報告に努めています。夜間休日においては、2名の臨床検査技師が常駐して緊急検査に対応しており、365日24時間体制で病気の診断や治療に欠かすことのできない臨床検査データを提供しています。

さらに2020年4月からは外来採血室での患者採血の一部を中央検査部が担当し、採血から結果報告まで検査に関わる全過程を検査のプロである臨床検査技師が行うことで、より精度の高い臨床検査データが提供できるように努力しています。

また、「県民の健康と生命を守るために満足度の高い臨床検査を提供する」を品質方針として検査部員全員で努力した結果、2007年には臨床検査室の国際規格であるISO15189認証を中国四国地方で初、全国でも21番目という早さで取得することができました。取得後はISO15189の最も重要な要求事項である「継続的改善」に励み、2019年には3度目の更新が認められました。他にも輸血機能評価認定の取得、日本臨床衛生検査技師会精度保証施設認証の取得など外部審査機関からも高い評価を受けています。

臨床検査の手法は日々目まぐるしく変化しています。この変化を正確に見極めることができる「真に実力のある検査室」となれるよう、今後も努力していきますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

# 地域医療連携ニュース

## 地域医療連携室長就任挨拶

地域医療連携室長
清 水 由 美

地域医療連携室の室長を拝命しました清水由美です。入退院支援センター・医療相談室の室長も兼務しています。看護部長の6年を経て、新たな環境で心機一転頑張っています。職場には看護職とソーシャルワーカーが在籍しています。私自身、これまで気づけなかった視点で患者さんやご家族の生活・要望を把握しており、退院後の生活を支える実践力には感心しきりです。一方地域からは、多くの医療・介護職の皆さんが入院中の患者さんを訪問されており、患者さんとのつながりを大切にされていることを実感する毎日です。

今後、今以上に多くの患者さんを当院にご紹介いただけますよう、地域の医療・介護の方々と顔の見える関係を創っていきたいと思います。組織全体を見据え、微力ながら室長業務に尽力してまいります。よろしくお願いいたします。

### 心温まる応援ありがとうございます…

新型コロナウイルス感染症の蔓延により多くの方々の生活が制限を受ける中、医療機関に対して様々な形で応援メッセージが届いております。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

この思いに応えるために、職員が一丸となって県民の健康と生命を守るべく全力を尽くしてまいります。

## 院長だより

新型コロナウイルス感染症は医療・教育・社会経済活動と多方面にわたり世界の至る所に甚大な影響を与え続けています。

「新しい生活様式とは何か」の模索が続く中、私たち医療人は、患者さんに出来るだけ早く笑顔で社会に復帰していただくための上質な診療を提供する責務があります。

この度、短期間での改修工事でしたが、当院の感染症センターは最先端モニター機器を備えた高機能な施設に生まれ変わりました。多いに期待したいと思います。

武藤 正彦

インフォメーション
# information

## 当院職員が「令和2年度山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰」を受賞

この度、医療安全推進室の木原雅子室次長（看護部師長）が「令和2年度山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰」を受賞しました。この彰は、『多年にわたり看護業務に従事し、県民の保健福祉の向上に顕著な功績があり、他の模範となる者』として表彰されるものです。木原室次長は、1981年に当院に入職後、ICU・循環器病棟・脳神経外科病棟などを経て、2009年から医療安全推進室の専従看護師として勤務しています。院内のリスクマネージメントや地域の医療安全を支援する活動などが評価されました。

## ホームページで当院の「新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み」をお知らせしています

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にかかる当院の取り組みをホームページでお知らせしています。連携機関向け、患者さん向けのお知らせを掲載しておりますのでご覧ください。

## やまぐち医療最前線（tys テレビ山口）

| 放送日時 | 放送内容 | 出演 |
|---|---|---|
| 8月1日(土)　18:55～19:00<br>8月5日(水)　15:55頃～ | 最新の人工膝関節について | 整形外科<br>椎木 栄一 医師 |
| 9月5日(土)　18:55～19:00<br>9月9日(水)　15:55頃～ | ほくろ癌（メラノーマ）に対する新しい治療 | 皮膚科<br>山田 隆弘 医師 |

## ○編集後記

我が家では、小さな小さな庭の一角で家庭菜園をしています。GWに植え付けをして、6月の終わりからは毎日のようにミニトマト、きゅうり、ナス、ピーマンが収穫できます。子どもたちは取れたての夏野菜を庭でそのまま、大人はパスタやピクルスを作って旬の野菜を楽しんでいます。広報誌でも院内の旬な話題をお届けしていきたいと思います。（企画調整室H.A）


【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する

地方独立行政法人
山口県立病院機構

山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511　山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411（代表）　FAX 0835-38-2210
URL https://www.ymghp.jp/